

小川国夫

作家のユーモア

HIRUANDON
昼行燈



ノート



遅れの美学——小川時間。

写真 相田昭撮影

孤高の文士の日常には、

やさしさとユーモアがあふれていた。



散歩の極意。



版画家・柄澤齊からさわひとしによる『昼行燈ノート』挿画 65点を展示

2012年4月14日(土)～6月3日(日) 藤まつり期間中(4/21-5/5) 入館無料・無休

藤枝市郷土博物館・文学館

〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500番地(蓮華寺池公園内)
TEL: 054-645-1100 FAX: 054-644-8514
http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/kyodomuse_index.html

- 開館時間: 午前9時～午後5時 ■休館日: 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日
- 入館料: 大人200円、中学生以下無料(博物館・文学館共通)
- 交通案内: JRの場合…JR藤枝駅から「新静岡行」バス10分、「蓮華寺池公園入口」下車、徒歩5分/お車の場合…国道1号緑町交差点経由、または藤枝バイパス(東から)数田東IC、(西から)谷稲葉IC経由

KIKAWA KUNIO

小川国夫

作家のユーモア

昼行燈ノート

藤枝市文学館第31回企画展

2012年4月14日(土)～6月3日(日)

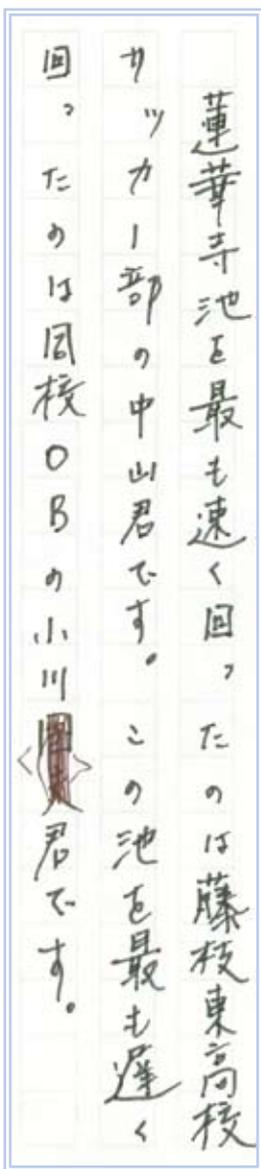
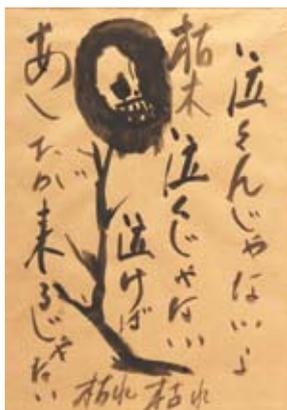


小川国夫の随筆集『^{ひるあんどん}昼行燈ノート』(文藝春秋社・1997年)からは、作家のユーモアと優しさ、そして、真摯な眼差しが伝わってくる。同作は、1995年10月1日から1996年12月29日まで、『日本経済新聞』日曜日朝刊に連載された作品を中心に約80作の随筆がまとめられている。酒を愛し、故郷の風景を慈しみ、時の流れを悼む——藤枝に生まれ、藤枝に育った枝っ子作家・小川国夫の日常と人柄、ユーモアに迫る。今回の企画展では、『昼行燈ノート』の原稿を中心に、軽妙なタッチで洒落のきいた小川国夫漫画や版画家・柄澤齊による挿画を展示する。

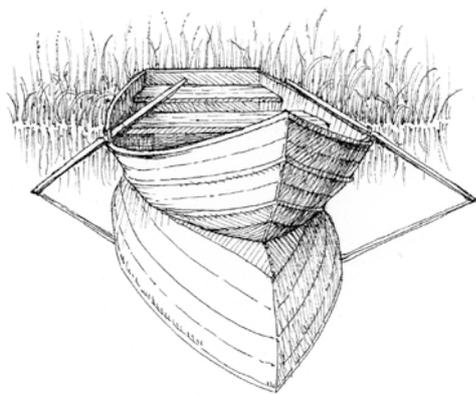
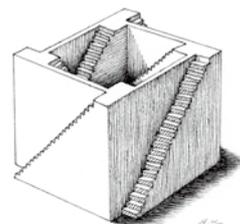
移動するミイラ、鶏ガラ、亡骸…。
ニツクネームは、
たくわん嫌い。

牛歩より鈍い。
のろ

昼夜逆転生活。



「ああ高校生」原稿
中山君＝中山雅史選手



柄澤齊による「昼行燈ノート」挿画

小川国夫 おがわくに お (1927-2008)

静岡県藤枝市生まれ。1950年東京大学文学部入学。大学在学中にフランスへ私費留学。パリ大学などに籍を置き、この間、スクーターで地中海沿岸諸国を旅した。この体験がその後の小川作品の素地となった。著書に『アポロンの島』、『或る聖書』、『試みの岸』、『悲しみの港』、『逸民』、『弱い神』がある。

柄澤齊 からさわひとし (1950-)

栃木県日光市生まれ。現代木口木版画の第一人者として、また、本の装丁や挿画の仕事も手がけ、現代美術作家として活躍。一方でエッセイを執筆し、ミステリー小説『ロンド』で下野文学大賞を受賞。日本経済新聞連載の小川国夫「昼行燈ノート」に65点の挿画を寄せた。



チラシや包装紙の裏に描かれた小川国夫漫画

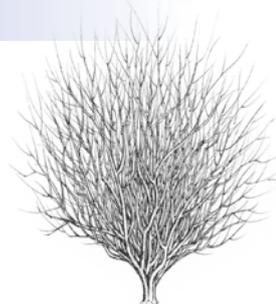
関連イベント

逸民忌と朗読劇

小川国夫の命日に毎年開催される逸民忌。今年は、小川の母校静岡県立藤枝東高等学校・演劇部による小川作品の朗読劇を開催。※申込不要、直接会場へ
とき／4月8日(日) 午後2時30分～
ところ／文学館前芝生の広場(雨天の場合は文学館内)
主催／藤枝文学舎 問：054-638-4335 (鈴木宅)

講演会「小川国夫と昼行燈ノート」

「昼行燈ノート」新聞連載の舞台裏と文士小川国夫のエピソードを当時の担当記者が語る。
とき／5月6日(日) 午後2時～3時30分
ところ／文学館講座学習室
講師／浦田憲治氏(元日本経済新聞社・文化部編集委員)
受講料／200円 定員／45人
申し込み／電話で郷土博物館・文学館へ



挿画：柄澤齊